

興讓館高校に訪れた一五八回目の春。

新入生諸君、入学おめでとう。

教育の再生が求められる時代、その本質に向けて挑戦を続ける興讓館の人間教育に憧れ、大きな期待を持って門をくぐった少数精鋭、選び抜かれた君たちと保護者の皆様方に、今こうして出会えたことを心から嬉しく思います。

ここは、君たちの持てる可能性を将来、最大限に開花させていくための生き方や考え方を学ぶフィールドです。

「学ぶ」という意味を、往々にして教科学習の知識理解の側面だけに勘違いしやすいものですが、興讓館高校伝承の校訓「白鹿洞書院揭示」の原典を追求してみると、「学ぶ」とは、「自己完成」を目指すことに他なりません。すなわち、政治、社会、環境がどのように変化しようとも、人として正しくまっすぐに生きていくことができる徳の高い人間を目指して、人格を高めていくということなのです。

しかし、現代、規範意識が低下し、自分の内面に目を向けることができず、自己中心的な発想が横行していると言われています。それは、私たち自身が「生かされてい

る」という認識とそれに対する感謝の心を忘れてしまったからではないでしょうか。

入学生諸君、義務教育を終え、新たな高校生活を出発するに当たって、「あなたの命はどこからどうやって授かったのか」そして、「あなたは今、なぜここにいることができるのか」を考えることから始めて下さい。それを理解することが「学び」の第一歩目なのです。

今ここにいるあなた方のその心臓の鼓動は、何十億年という遙かな宇宙の歴史そのものなのです。長い長い歴史を超えてリレーしてきた命を、今、あなたという人間が生きているのです。人類の英知、親、家族の愛情・・・その奇跡の結晶である命を「有り難い」と感じながら生きてほしいと思います。

生きていくための「学び」にあたって道元禅師の「正法眼蔵」の中に見られる言葉が大きな示唆を与えてくれます。

『自己をならふというは、自己を忘るるなり。自己を忘るるといふは、万法に証せらるるなり。』

すなわち、常に自分という人間の内面に眼を向けなさいと。エゴを捨てて、今、ここ

で生きている、生かされている、ということに気づいたとき、そこに「感謝」が生まれるものだ。その「感謝」がすべての出発点となったとき、発せられる言葉、行動に変化が起こり、自己完成へと近づいていくのではないのでしょうか。

ここからの三年間は、今まで以上に高い波がうねることもあるでしょう。しかし、君たちは、今ここで、自己完成への「志」を立て、今ここから、自らを律し、誠の道を追求してください。人生という名の大海を延々と泳いでいくための本物の力を養う三年間であってほしいと思います。

入学生の保護者の皆様、本日のご入学、誠におめでとうございます。

大切なお子様を、本日確かにお預かりいたしました。彼等の人生にとって、将来を決定づける重要なこの三年間、親に対する「孝」の大切さ、「礼」の精神を教授し、生徒の将来の幸せのために全力で指導してまいります。

また、皆様方も本日より「チーム興譲館」の一員となります。教職員、保護者、卒業生、地域一体となって、彼等を育てていきたいと思えますので御理解、御協力のおほど、よろしくお願い申し上げます。

来賓の皆様方には、ご多忙の中、本日の入学式にご臨席賜り誠にありがとうございます。
す。

本日新たに入学いたしました生徒、そしてまた、本校に対しまして今後ともご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

さあ新入生諸君、興讓館には、君たちとの出会いを首を長くして待っている先輩達がいま、そして火傷しそなくらい熱く、情熱に溢れる先生方がいます。興讓館の活動は、いつも「感謝と感動」から始まります。今日から君たちも興讓館の一員です。さらに言うなら、君たち自身が興讓館になります。高い志と自覚を持ってスタートを切ってください。

平成二十二年四月八日

興讓館高等学校 校長 小谷 彰 吾